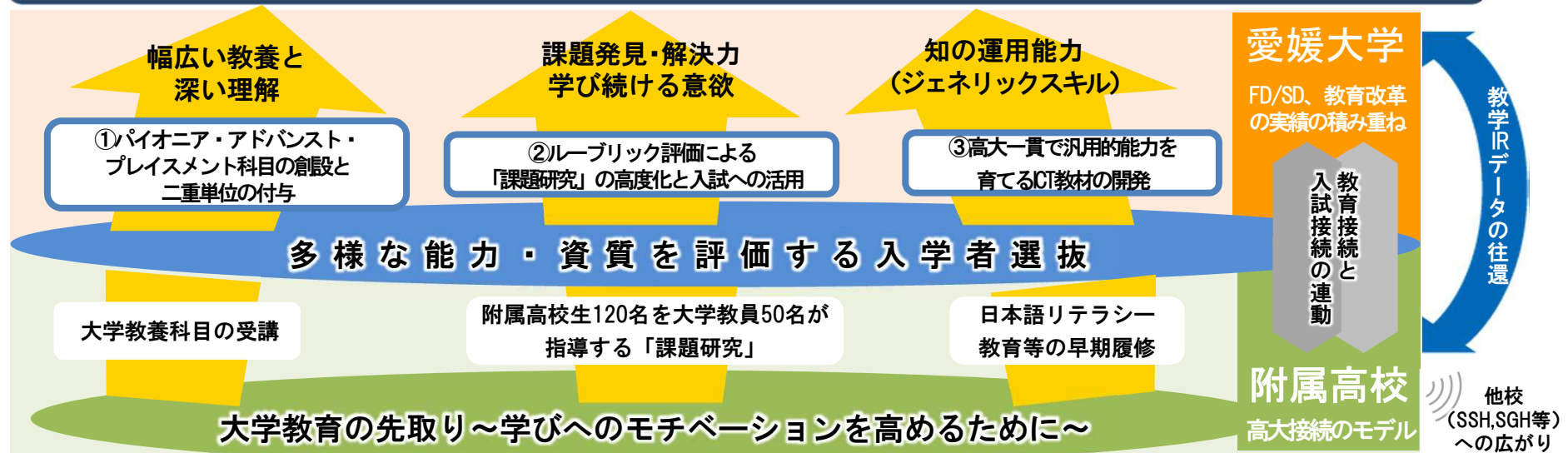


大学等名：愛媛大学

テーマ：テーマⅢ（高大接続）

本事業は、愛媛大学附属高校をモデルとして取り組んできた大学・高校教育の円滑な接続方法の研究・開発を発展させ、高校段階で“学びへの意欲”を高めることによって大学における“深い学び”を確保し、大学教育の到達点の高度化を目指す。そのため、①パイオニア・アドバンスト・プレイスメント(P-AP)プログラムの創設と二重(デュアル)単位の付与、②ルーブリック評価による「課題研究」の高度化と入試への活用、③高大で一貫して汎用的能力を育てるICT教材の開発を実施し、高大接続事業による問題発見・解決力育成の成果を深化発展させ、「幅広い教養と深い理解」「学び続ける意欲」「知の運用能力」を育成する。また、教学IRによって大学入学後も接続教育の効果測定を行い、高校及び大学教育の質的向上を図るとともに、本事業で得た知見や評価方法を、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する新入試制度の導入においても活用する。

大学教育の到達点の高度化 ～早期の”動機付け”から”深い学び”へ～



【事業の成果の指標】	26年度	28年度 (目標値)	30年度 (目標値)
高校において大学レベルの授業を受講し、十分な成果が認定される生徒の割合	0%	30%	70%
本事業により、大学で履修する科目のレベルが上ったり、幅が広がる学生の数	0	70	90
課題研究など主体的な諸活動を評価する入試方式の実施率(対募集人員)	20%未満	25%	50%

- 高大の接点を質的・量的に拡充することで、高校教育・大学教育・入試の一体的改革を実現
 - ・ 意欲・能力に優れた高校生が上級科目を履修することにより、大学入学時の学力を引き上げる。
 - ・ 大学では多様な履修歴をもつ学生に配慮した授業科目を提供し、卒業時の到達点を引き上げる。
 - ・ 入試は主体性や応用力を含む総合的評価へ移行